

～法人への願い～

「対話して育つ」
評議員 柿田 雅子

人間が過酷な自然環境のなかを絶滅せずに生きてこれたのは、支えあい助けあったからだといわれています。幾多の誤りを経て、共存を「民主」主義にゆだねる大切さがようやくわかりかけてきたところなのに、今は、はたまたま世界は、弱肉強食、武力衝突の危機にさらされています。この存亡の機を乗り越える手はただ一つ、人間らしさのキモである「対話」に依拠することでしょう。

思いを伝える、考える、わかりあうーここからみんなを大切にする道は拓かれるもの。乳児期から、この「法人」から、子どもも大人も空気のように対話する関係を築き、育ちたいと願います。

多摩福祉会への願い
評議員 桐山 健

今、評議員をやらせてもらっています。ぼくは1991年より障害児パートとしてこれまでお世話になり、1994年から2003年まで正規職員としてお世話になりましたので、今は恩返しのためです。

ぼくが在籍していた時期に異年齢兄弟姉妹保育の検討がされました。

一歳から五歳の異年齢保育のための園舎建て替え、創立時の職員の退職が2011年にピークを迎えるにあたり、保育園の中長期計画の策定など、いろんな出来事があり、多くのことを学ばせていただきました。

こぐまの保護者はお客さんではなく、ぼくにとっては人生の先生たちです。新米の保育士であったぼくを時に叱ってくれたり、温かく見守ってくれたり、懇談会で、しっかりと話したね！と、保育士としての成長を喜んでくれたりもしました。人として保育士として、子どもとも保護者とも、職員同士でも「つながること」の楽しさ、大切さを教えてもらった、こぐまでの経験は、今、とても貴重だと感じます。

人がつながることが困難な今だからこそ、このことを大切にしてきた多摩福祉会に期待したいし、関わることで自分にも刻み続けていきたいと思っています。



児童クラブへの想い

評議員 西原 敬仁

私の知り合いに多摩市外の児童クラブでアルバイトをしている学生がいます。仕事内容としては、児童の遊び相手、掃除、児童の見守り(怪我しないか)、喧嘩の仲裁、イベントの企画・準備等です。その中でも、喧嘩の仲裁が一番大変で、以下の手順を踏んで仲裁を行うそうです。

- ①まず落ち着かせてから仲裁を始める。
- ②両方の言い分をそれぞれ聞き、事の次第を把握してから注意しなければいけないことを見つけて出す。
- ③児童に注意すべき点を理解させた上で謝ってもらい、謝られた児童の理解も得る。

聞くたびに仕事の大変さと大切さを感じさせられています。多摩福祉会に属する保育園、児童クラブの職員の皆様へ、日々のお仕事、大変な事が多いと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

法人だより たまふく



連絡先

〒155-0031 東京都世田谷区北沢 2-36-9
ベル下北沢4階
TEL:03-6804-8345
FAX:03-6804-8347
Mail tamafukushikai@gmail.com

永山学童クラブ

施設長 小山 牧子

永山学童クラブは永山児童館の建物の二階にあります。専用の庭はありませんが隣接する自然のままの公園で子ども達は学年や男女を問わずサッカーや鬼ごっこなどをして思いっきり走り回って遊んでいます。

今年度多摩市から運営を委託されて四年目となりました。委託当初より子ども達の主体性を大切に子ども達が卒クラブ後に自ら考えて行動できることを目標に育成に努めてきました。

今年度は貝取学童クラブや永山小学童クラブで取り組んでいる少人数のグループ制を取り入れ、北組と南組二つに分かれて遊び以外の時間を過ごしています。



2017年度から砧保育園の園長になりました。世田谷のこと砧のことは教えてもらうことばかりです。のびのびしていて、けんかもするけれど小さい子やお友達をちよつと気づかえる子どもたちの姿に砧保育園の積み重ねを感じています。



近年感じること
砧保育園 園長 高橋 博子

30年前にわたしが担当していた園児さんが親御さんになってお子さんをあずけ

おしく感じて不思議でした。

さて、最近よく思うのは平和のことです。私の親族は戦争で亡くなっています。父母と祖母は甲府空襲を生き延びましたが、父方の叔父の一人は戦死し、一人は戦中に病死しました。長生きした叔父と父は入隊が終戦直前だったので「死なずに済んだ」そうです。空襲で、焼夷弾が落ちてきたとき、父も祖父もバケツリレーなんかはやらず、「逃げる」と家族や同輩と逃げたそうです。そう判断できた祖父や父がいて、親族の苦しみと世界中の人々の苦しみの上に私の命があると感じています。渡された平和のバトン。つながりなくはないと思います。えらいひとの嘘で当時のこどもたちを戦争に動員したことを繰り返さないように。

2018年度後半予定

- * 法人 45周年記念 合同研究集会 10月27日
- * 理事会 12月1日
- * 評議委員会 3月9日
- * 評議委員会 3月23日
- * 新入職員研修 2月23日

編集後記

今回の第4号で無事この「たまふく」を1年間発行していただくことが出来ました。職員・理事・評議員・この法人に携わる仲間で作りに上げるこの法人ニュースそのものも、多摩福祉会の姿そのものでもあると思います。

そしてこのつながりがこれからも続いていくよう、また、おなじような思いで、保育・福祉の発展を願う関係者となつて、次期も編集委員一同頑張っていきたいと思っております。皆様からのご要望・ご意見お待ちしております。

法人ニュース編集委員
伊藤亮子 (法人理事)
針尾政幹 (こぐま保育園)
田代ゆい子 (上北沢こぐま保育園)
江藤龍之介 (永山小学童クラブ)
イラスト 鈴木玲子 (こぐま保育園)

それぞれのグループで子ども達におやつや帰りの会の進行を任せたり、その進行の順番や座席などを考えてもらったりしています。また、昨年度に引き続きテラスでプランターを使って野菜作りをしています。子ども達の意見を聞き入れ、小玉すいかやとうもろこしなどの栽培に挑戦しました。自分の担当したい野菜を決めて植え付けや水やり、収穫、収穫後の野菜を切ったり茹でたり調理することも子ども達が行いました。今年思いのほか収穫が出来て子ども達は喜んで食べていました。

もちろん、子どもの意見を大切に自主的な活動をさせることには大人のサポートが必要になります。職員の中で子ども達の意見をどこまで受け入れるかについては様々な意見が出されることがあります。職員も話し合い、子ども達と共に失敗や成功を繰り返しながら成長していきます。

そして今日も子ども達が学校から元気に「たたいま！」と学童クラブに来て「楽しかった！」と満足してお家に帰っていく姿を大事に過ごしています。



子ども達のために一緒に働きませんか?お待ちしております!

願い叶って4月から働き始めました こぐま保育園保育士 佐伯智美

今年度からこぐま保育園に入職し、0歳児の担任を持っています。入職して感じたことは、「こぐまの先生はよく話す」ということ。子どもの姿、日々の保育のやり方、離乳食の進み具合、保護者との会話、なんでも共有し一緒に考えます。たくさん話す中で学びも多く、「保育って楽しい」と改めて感じる事ができました。そして、こぐまは、子ども一人一人を受け止めることを大切にしています。例えば、友だちが使っているおもちゃをとってしまう子に対し「取ったらダメ」ではなく、「ほしかったんだね」とまずはその子の気持ちを受け止めるのです。私はまだまだこぐまの先生たちのような保育ができていませんが、あこがれのみなさんに近づけるよう、学んでいきたいです。



中開きに「2018年度の事業計画・当初予算概要」を記されていて、斬新さを感じるとともに、全体のレイアウトと内容を興味深く読みました。私の関係している法人に見せたいと思います。

日本福祉大学
名誉教授
勅使千鶴

創刊号で浦辺叔父さんの事を書いてくださり有難う。創設期に「こぐま」に関係したことを嬉しく思っています。私は今年91歳になりました。週に一回歌声喫茶で歌っております。毎年メーデーにも参加しています。

多摩福祉会
創設理事
鹿島昭二



こぐま欄

多摩福祉会創設45年記念 第4回保育・学童支援合同研究集会のご案内

自ら学び共に育ちあってきた45年 ～いま次世代に希望をたくす～

社会福祉法人多摩福祉会
理事長 垣内 国光

拝啓 清秋の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。平素の無沙汰を心よりお詫び申し上げます。いつも当法人事業にお力添えをいただき心よりお礼申し上げます。

さて、1973年4月1日、多摩福祉会がこぐま保育園を創立して以来、45年を迎えました。住民生活に深く添い、子どもたち・父母の願いに応える法人として、職員をはじめご支援をいただく皆様に支えられ、いま、4保育園、3学童クラブの運営を担う事業体となりました。これまでの歩みを支えてくださった皆様のご支援を職員ともども深く心に刻んでおります。

つきましては45年を記念して、下記の通りシンポジウムと多摩福祉会保育・学童支援合同研究集会を行います。ご多忙のところ恐縮ではございますが、是非ご参加いただきますようご案内申し上げます。

敬具

同窓会会員の皆様へ

同窓会世話人会

皆様ご活躍のことと思います。今回、45年記念の法人合同研究集会に同窓会会員様をぜひお誘いしたいと、法人から申し入れがありましたので、同窓会世話人会として、協力することになりました。宜しく願いいたします。

開催日時：2018年10月27日(土) 10:00~16:00

会場：明星大学 日野キャンパス (日野市程久保2-1-1)

午前の部 10:00~12:30 全体会【オープニング・シンポジウム】

午後の部 13:30~16:00 分科会【各分科会に分かれての話し合い】

	分科会テーマ	提案施設及び提案者名		分科会テーマ	提案施設及び提案者名
1	「45年のあゆみとともにし、振り返って」	みんなで提案、みんなで討議	6	「特別なニーズに応える保育(発達上の困難を抱える子)への支援」	貝取学童クラブ 清水 智仁 砧保育園 前之園 祐子
2	「給食の歴史、食育、子どもの摂食について」	多摩福祉会給食部会 青木 泉 (こぐま)、 小西 里美 (砧)、河野 満衣 (向山)	7	「表現活動～体育～」	向山保育園 中本 琢也 こぐま保育園 針尾 政幹
3	「乳児保育」	こぐま保育園 佐伯 智美 上北沢こぐま保育園 尾形 智美	8	「表現活動～美術～」	砧保育園 小西 風太 こぐま保育園 峰岸 さやか
4	「生活と遊び」	上北沢こぐま保育園 茂木 常禎 加藤 望 永山学童クラブ 笠井 智文	9	「表現活動～わらべうた～」	砧保育園 山本 えりか 長谷川 由起 小笠原 陽子 向山保育園 久保 日香理
5	「グループ担当制と異年齢の育ち合い」	永山小学童クラブ 中村 輝 こぐま保育園 中込 英人	10	「父母とともに育てる施設運営」	向山保育園 菊地 由美子 上北沢こぐま保育園 安川 信一郎

改めて多摩福祉会は、多くの子どもたち、保護者を支えていく事業体なのだと思います。そのことを念頭に置き、日々の保育の中で、私たち職員にできることを考えていければと思います。

向山保育園
保育士
R・S

運営母体も保育園から学童までとは、もうびっくりです。こぐまの職員として、夜遅くまで車座になって学びあひ、心を合わせて確かめあってきたことが、良心の輪が大きく広がっている事にも大変嬉しく心強いと思います。

こぐま保育園
OG
佐藤たい子

こぐま欄